

2023年10月5日

## 【 声 明 】

マイナンバーカードと健康保険証の一本化を中止し  
現行の健康保険証の存続を求めます

一般社団法人 岩手県難病・疾病団体連絡協議会  
<http://iwanan.net/>  
e-mail:iwanan@io.ocn.ne.jp

政府は健康保険証廃止法案を可決・成立させ、2024年秋で紙やプラスチックの健康保険証を廃止してマイナンバーカードへ健康保険証機能を一本化する方針を打ち出しました。

ですが現在、マイナンバーカード保険証はトラブルが頻発しており、多くの国民が不安や疑問を覚えています。国のデジタル化推進について、私たちは全面的に反対をするものではありません。

ただ、マイナンバーカードに健康保険証を紐付けし、更に現行の健康保険証を来年秋に廃止してしまうという施策に、あまりにも拙速ではないかと感じてしまいます。マイナンバーカードの取得は国民の任意によるものではなかったのでしょうか。それが国民への普及がなかなか進まない状況を、国民の命の証である健康保険証と紐付けすることにより、義務的にマイナンバーカードを取得させようという意図があるのでは、と国民に思われても仕方がないのではないのでしょうか。

現行の健康保険証が廃止となれば、マイナンバーカードを持たない人は公的保険診療から遠ざけられる結果となりかねず、国民皆保険制度の下で守られている国民の命と健康が脅かされます。まして私たち難病患者は根本的な治療方法がない病気を悪化させないために、定期的な通院が必要ですし、症状によっては複数の科にかかることもあります。そのため病院との付き合いは一生のものとなります。健康保険証は指定難病受給者証などとともに、命となりわいを支える大切な証なのです。

私たちが大きな懸念を持つ点は、マイナ保険証並びに資格確認書の発行について、政府の見解が二転三転している状況があるからです。様々な障害やシステム異常が発生したときに、タイムラグなしに医療の受診ができるのか、また「無保険者」扱いを回避できるのか甚だ疑問です。

「ヒューマンエラーはゼロにはならない、リスクをゼロにしようとするれば何も進歩しない。」という見解があったようですが、医療の場でエラーが生じては、難病を抱えている患者にとっては命にかかわる問題です。また、1回につき高額な医療費がかかるケースもあり、とても10割負担できるものではありません。安心・安全に受診できるためにはマイナンバー保険証での通院は非常に不安です。

他人への紐づけなどの問題もありますが、患者の医療情報などは「要配慮個人情報」であり、その漏洩は患者個人の尊厳が脅かされますし、赤の他人の情報により難病患者本人の治療が正しく行われなければ、それは命にかかわる重大な事態を引き起こす危険すらあります。

マイナンバーカードと健康保険証の一本化について、十分な議論を尽くしたとは到底思えません。この制度を強行すれば、国民皆保険制度の根幹を揺るがしかねません。

私たちは以下2点を求めます。

- 1 マイナンバーカードのシステムそのものに100%信用がおけない以上、直ちにシステムを停止し、現行の健康保険証との一本化を中止して下さい。
- 2 健康保険証の廃止を中止し、現行の健康保険証を存続して下さい。

以上